

# 令和5年度啓発の記録



第18回わけもんの主張（令和6年2月17日）

**宮崎県選挙管理委員会  
明るい選挙宮崎県推進協議会**



宮崎県明るい選挙推進キャラクター  
『神楽めいすいくん』

## は し が き

令和5年度は統一地方選挙が執行され、本県においても県議会議員選挙、町村長選挙及び市町村議会議員選挙が行われました。令和5年4月9日に執行された県議会議員選挙においては、現行の14選挙区では過去最多の11選挙区で投票が行われ、現行定数下で最多の55人が立候補する激戦となりましたが、投票率は前回は0.99ポイント上回ったものの40.75%と低い結果となりました。

この間、宮崎県選挙管理委員会及び明るい選挙宮崎県推進協議会は、臨時啓発として、テレビCMや新聞、SNS広告等を通じて選挙人に周知したほか、大学や商業施設等で街頭啓発を行うなど、投票率向上に向けて啓発活動を行ってきました。

また、令和5年度は常時啓発事業として、ポスター・書道作品コンクール、ポーターズ・ゼミ、選挙啓発動画作品コンテスト及びわけもんの主張等を実施しました。コロナ禍で応募の少なくなっていたポスター・書道作品については、1万点を超える作品の応募をいただき、徐々にコロナ禍前の状況に戻りつつあります。ポーターズ・ゼミについては、参加生徒に政策立案側と有権者側の双方を経験してもらうことで、将来のより良い社会づくりや投票等の政治参加について考える機会とすることを目的とし、地域課題に対する解決案の検討と選挙体験を組み合わせる形で実施するなど、これまでの啓発事業を進化させる取組にも挑戦しているところです。

今年度も複数の市町の選挙が予定されているほか、衆議院議員総選挙が執行される可能性もあり、選挙啓発のより一層の取組が求められています。

今後も、一人でも多くの有権者が積極的に選挙に参加されるよう関係団体の皆様と一層の連携を図りながら、より効果的な選挙啓発の推進に努めてまいります。

最後になりますが、選挙の啓発につきましては、市町村の選挙管理委員会並びに明るい選挙推進協議会、宮崎県教育委員会、報道機関及びその他関係各位に多大な御協力をいただいておりますことをここに改めて深く感謝申し上げます。

令和6年5月

宮崎県選挙管理委員会 委員長 茂 雄 二  
明るい選挙宮崎県推進協議会 会長 田 原 新 一

# 目 次

## I 常時啓発の取組

1 明るい選挙推進事業の主な実績（概要）	1
2 明るい選挙推進事業の取組（詳細）	
（1）啓発事業	
①明るい選挙推進懇話会	3
②明るい選挙啓発ポスター・書道作品コンクール	9
③政治と選挙を学ぶ「Voter's Seminar」	15
④若者に届く！届ける！選挙啓発動画作品コンテスト	16
⑤第18回わけもんの主張	17
（2）研修事業	
①若者リーダーフォーラム（九州ブロック）	34
②明るい選挙リーダーフォーラム（九州ブロック）	34
③地域コミュニティフォーラム（九州ブロック）	35
④九州各県選挙管理委員会職員選挙事務・選挙啓発研究協議会	35
⑤代表者会議・全国フォーラム	36
3 その他の取組	
①選挙出前授業の実施	37
②学校関係者への説明	39
③住民票異動に関するチラシの配布	39

## II 臨時（選挙時）啓発の取組

宮崎県議会議員選挙	40
-----------	----

# I 常時啓発の取組

## 1 令和5年度 明るい選挙推進事業の主な実績（概要）

### （1） 啓発事業

事業名	事業の概要
① 明るい選挙推進懇話会 令和5年度の取組に係る懇話会の開催	開催日：令和5年6月27日（火） 場 所：県庁本館 講堂 参加者：明るい選挙宮崎県推進協議会委員等 14名
② ポスター・書道作品コンクール 政治や選挙に関する啓発作品募集 （小学生～高校生）	募集期間：令和5年5月8日（月）～9月1日（金） 応募状況：ポスターの部 457点 書道の部 9,560点 中央審査会への提出：9点（ポスターの部） 作品の審査：令和5年9月11日（月） 展示会開催：令和5年9月23日（土）～30日（土） 展示会場所：イオンモール宮崎
③ 政治と選挙を学ぶVoter's Seminar （ポーターズ・ゼミ）	開催日：令和5年10月16日（月）・20日（金）・23日（月） 参加者：県立日南高校の生徒（39名） 内 容：「公共」の授業を利用して以下の内容を実施 ① 選挙や政治参加の意義に関する講義 （講師：宮崎大学 吉村教授） ② 日南市の課題に関する講義 （講師：日南市総合政策課職員） ③ グループワーク（課題解決案の検討） ④ グループ発表 ⑤ 投票
④ 若者に届く！届ける！ 選挙啓発動画作品コンテスト （高校生以上の個人又はグループ）	募集期間：令和5年8月14日（月）～10月31日（火） テーマ：選挙～未来を考える「推し活」～ 応募状況：16作品 作品の審査：令和5年12月1日（金） 表彰式：令和6年2月17日（土）
⑤ 第18回わけもんの主張 若者の政治や選挙に関する意見発表会 （15～29歳）	（支会予選） 開催日：令和5年12月～令和6年1月 （本選） 開催日：令和6年2月17日（土） 意見発表者：8名（各支会1名 ※宮崎・東諸県支会は2名） 作品の審査：6名の審査員の採点により審査

## (2) 研修事業

事業名	事業の概要
①若者リーダーフォーラム (九州ブロック)	開催日：令和5年12月10日(日) 場 所：長崎県長崎市(出島メッセ長崎) 参加者：なし
②明るい選挙リーダーフォーラム (九州ブロック)	開催日：令和6年1月30日(火) 場 所：福岡県福岡市(博多サンヒルズホテル) 参加者：2名(明推協会長、事務局1名)
③地域コミュニティフォーラム (九州ブロック)	開催日：令和5年10月20日(金) 場 所：大分県大分市(大分県労働福祉会館ソレイユ) 参加者：なし
④九州各県選挙管理委員会職員 選挙事務・選挙啓発研究協議会	開催日：令和5年8月22日(火) 場 所：佐賀県佐賀市(グランデはがくれ) 参加者：2名(事務局のみ)
⑤代表者会議・全国フォーラム	開催日：令和6年3月4日(月) 場 所：東京都千代田区(ホテル ルポール麹町) 参加者：2名(明推協会長、事務局1名)

## (3) その他の取組

事業名	事業の概要
出前授業の実施 県選挙管理委員会、市町村選挙管理委員会の取組	実施時期：令和5年4月～令和6年3月 実施件数：小学校 7校 中学校 10校 高校 9校 支援学校 3校 大学・専門学校 2校 その他 2団体 合計 33団体 ※市町村選挙管理委員会実施分含む。うち県選挙管理委員会実施は2件
県立学校副校長・教頭会での説明 (宮崎県教育委員会主催)	日 時：令和5年5月10日(水) 会 場：ひなたサンマリスタジアム宮崎 参加者：県立学校の教頭等 約50名
「主権者教育推進リーダー研修会」での説明 (宮崎県教育委員会主催)	日 時：令和5年5月11日(木) 会 場：ひなた武道館 参加者：県立学校の教員等 約50名

## 2 明るい選挙推進事業の取組（詳細）

### （1）啓発事業

#### ① 明るい選挙推進懇話会

明るい選挙宮崎県推進協議会の委員が一堂に会し、前年度の取組内容の報告と、当年度に計画している啓発事業等について、意見交換を行いました。

- 開催場所 県庁講堂
- 開催日時 令和5年6月27日（火）
- 議 題
  - 1 令和4年度明るい選挙推進事業実績
  - 2 令和5年度明るい選挙推進事業計画
  - 3 意見交換



## 令和5年度明るい選挙推進懇話会 議事録

日時：令和5年6月27日（火）

13時30分～14時45分

場所：県庁本館講堂

議事等：

- (1) 令和4年度明るい選挙推進事業実績
- (2) 令和5年度明るい選挙推進事業計画
- (3) 質疑・意見交換（各委員からの発言）

### ○ 清藤委員（MRT 宮崎放送）

令和4年度の出前授業の実績が24件ということであるが、コロナ禍前の実績と比較してどうなのか、令和5年度はどれくらいを目標に実施されるのか教えてほしい。

### ● 事務局

令和元年度までは、出前授業の受講者が全体で1万人前後であったが、コロナ禍で一箇所に受講者を集めて実施することが困難であったり、学校に訪問することを控えたりする状況であったため、実施件数及び受講者数が減少したところである。

今年度については、学校側からの依頼数等も影響するため具体的な目標は定めていないが、学校側への説明会等において積極的にお声がけしてほしい旨を伝えている。コロナ禍前の実施状況に戻るよう県と市町村と連携して実施していきたい。

### ○ 緒方委員（東臼杵支会）

県立高校副校長会・教頭会で説明したとのことであったが、内容等を教えてほしい。

### ● 事務局

県立高校副校長会・教頭会の説明は、教育委員会主催の説明会の中で、5分程度時間をいただいて説明したもの。県選管の取組等を説明し、出前授業等のお声がけ等について依頼したところである。これとは別に、主権者教育推進リーダー研修会にも出席させていただき、こちらでは県立高校の主権者教育推進リーダーの先生方に対して1時間程度説明をし、その後に意見交換を行ったところである。



○ 緒方委員（東臼杵支会）

投票所において、18歳で初めて投票する方はよく親御さんと一緒に来場されるが、初めての投票のお祝いに投票所内のスタッフで拍手をしていたところ、生徒が恥ずかしいからやめてほしいとのことであった。初めての選挙を応援したい気持ちはあるが、なかなか難しい。

● 事務局

「親子連れで投票に行きましょう」ということは選管としても呼びかけており、選挙公報にも掲載した。親子で投票に行っていた子どもが大人になったとき、行っていなかった人よりも30%程度投票率が高かったというデータもある。まずは子どもの頃から投票に慣れていただき、初めての投票では親や友達と投票に行っていたらと考えている。

○ 柿木原委員（都城・北諸県支会）

都城・北諸県支会の啓発の取組としては、高校生30～40名に参加していただき商業施設において啓発活動を実施した。これほど多くの高校生に参加してもらって啓発活動を行っているのは特徴的だと思う。

○ 猪狩委員（児湯支会）

児湯支会は、学校での出前授業や模擬選挙に力を入れていたり、人が集まる商業施設で街頭啓発を行ったりしている。また、スポーツ団体と連携して、啓発活動に取り組んだところもあった。

○ 緒方委員（東臼杵支会）

延岡では、九州保健福祉大学及びイオンモールで期日前投票を行っており、イオンの期日前投票は非常に利用される方が多い。昨年度の選挙では、宮崎のイオンモールと宮崎大学で期日前投票が実施されたが、状況等をまた教えてもらえるとありがたい。

○ 鬼束氏（宮崎公立大学選挙啓発部ライツ）

ライツは部員が40名で、宮崎市選挙管理委員会や明推協の方と連携して啓発活動を行っている。昨年度は選挙が立て続けに執行されたため、街頭啓発を行う機会が多く、約17回行った。学園祭においても啓発活動を実施し、自分達でデザインした物品を配布しながら投票参加を呼びかけた。

また、中学校において出前授業を実施したり、インスタグラムで選挙のカウン

トダウンを行ったりしたほか、ラジオ番組等にも出演させていただき、選挙情報を発信した。このような取組を通して、明るい選挙推進優良活動表彰の表彰団体に選抜された。

このほか、若者リーダーフォーラムへの参加や「わけもんの主張」の審査、運営等をさせていただいた。今後も若者の選挙への意識を高める取組を行っていききたい。

○ **野村委員（宮崎県地域婦人連絡協議会）**

地婦連では各市町村でそれぞれ啓発活動等を行っている。資料の中で、若者が投票に行かない理由について、「投票しても政治や社会は変わらないと思うから」という理由が多いことに驚いた。その部分について、もっと啓発で変えていければいいと感じた。

○ **長委員（宮崎県青少年団体連絡協議会）**

団体として具体的に啓発活動を行っているわけではないが、会員の中には選挙について意識が高い方がたくさんいる印象である。それぞれの会員が活動して投票率向上に貢献していると思う。

○ **末崎委員（宮崎日日新聞）**

昨年度以前から「わけもんの主張」を含め、様々な取組に関わらせていただいているが、コロナ禍の中で、本日報告のあった様々な取組をよく実施されたと関係者の皆様には敬意を表するところである。逆に言えば、これだけ啓発活動をやってもなかなか投票率は上がらないということに厳しさを感じる。私は職業柄選挙等に対して意識の高い人と関わることが多いが、それ以外の方々にどう関心を持ってもらうかが課題である。長期的な視点において、今の小学生等の世代の主権者意識を育てていくことが大事だと思う。

○ **清藤委員（MRT 宮崎放送）**

小さい頃からの教育や啓発が大事だと思う。様々な社会問題がある中で日本も厳しい状況になっているが、若い方々は公共性やSDGsなどの意識は非常に高くなっていることが希望だと感じている。ライツの方々が行われているような若い世代から若い世代へのはたらきかけが、非常に効果的であり重要だと思っている。報道機関としてもこのような取組を取材して発信していきたい。

○ **寺田委員（UMK テレビ宮崎）**

若い世代はテレビ離れが進んでいるため、テレビだけでなくSNS等を活用し

た啓発が重要になってくると思う。選挙啓発動画コンテストのクオリティも非常に高いと感じたので、これらを効果的に展開していくことができれば良いと思う。

○ 忠平課長補佐（県高校教育課）

各高校には主権者教育推進リーダーがおり、研修会等を実施しているところである。高校では「公共」という科目が始まったが、各学校で選挙のタイミングに合わせて出前授業や模擬選挙等を行ったりして選挙の機会を利用して学習を進めている。

○ 猪野委員（県生涯学習課）

生涯学習課は子ども、保護者、高齢者までの各世代の学びに取り組んでおり、このような立場からは、社会に出た方々への教育や啓発も大事だと感じた。中学校では生徒会活動があったり、高校では主権者教育を受けたりするなど、今の生徒達は社会との関わりを学んでいる。そこから社会に出て、NPO活動やライツの方々のような活動を行うなどそれぞれの活動につながっていくといいと思う。

○ 小川委員（県子ども家庭課）

昨年の県知事選挙の投票率について、全国でもあれほど注目された選挙でも投票率が6割に達していないことにショックを受けた。若い方々はスマホの影響により自分が入手した情報だけに触れており、情報に接する幅が狭くなっているのではないかと感じている。今後の啓発の方法として、若い方の情報収集の状況を踏まえて対応していくことが大事だと感じた。

○ 茂委員長

緒方委員からお話のあったイオンモール宮崎と宮崎大学での期日前投票の状況については、多数利用されたと聞いており、特にイオンモール宮崎は私も利用したが、知事選では行列ができていた状況であった。宮崎大学やイオンモール等の商業施設への期日前投票所の設置や移動期日前投票所、移動支援の取組などを各市町村選挙管理委員会に対しては紹介し、選挙人の利便性の向上をお願いしているところである。

小川委員から知事選の投票率の話があったが、私の個人的な感想として、投票率が低い選挙でおおよそ30%であることを踏まえると、選挙人の3割の方はどのような選挙にも行く人、別の3割の方はどんな選挙にも行かない人、4割の方が浮遊層と言うか、選挙によっては行くような人という印象を受けている。この約40%の方々に対して、しっかり啓発を行い投票に行ってもらうことが大事だと感じている。また、近年執行された選挙はほとんど前回よりは投票率は上がっており、投票率の推移は

底を打ったのかなとも感じているところであるが、次回からの選挙においても注視していきたい。

若者の投票に関する意識の資料があったが、意識や考えをすぐに変えるのは難しいと思うが、住民票がないから投票しないという部分については、この問題を解決すればその分は投票率の向上に寄与しやすいと思っている。引き続き、高校や大学など関係機関と連携しながら住民票の異動について呼びかけていきたい。

## ② 明るい選挙啓発ポスター・書道作品コンクール

小学生から高校生までの児童・生徒に明るい選挙を呼びかけるポスターや書を書い  
てもらうことで政治や選挙について考えるきっかけとすること、入賞作品の展示によ  
り、選挙の重要性について県民に広く訴えることを目的に実施しました。

○応募期間 令和5年5月8日（月）から9月1日（金）まで

○応募総数 ポスター 小学校 303点、中学校 138点、高校 16点  
書 道 小学校 7,340点、中学校 1,703点、高校 517点

○入 賞 ポスター 特選 11点、金賞 11点、銀賞 12点、銅賞 23点、佳作 73点  
書 道 特選 12点、金賞 12点、銀賞 12点、銅賞 24点、佳作 90点  
※ ポスター入賞作品については、中央審査に提出  
(小学校4点、中学校3点、高校2点)

○入賞作品展示 ポスター130点 書道150点  
会場：イオンモール宮崎 1階 レストランコート入口  
期間：令和5年9月23日（土）から9月30日（土）まで



令和5年度明るい選挙啓発ポスター作品（特選作品）



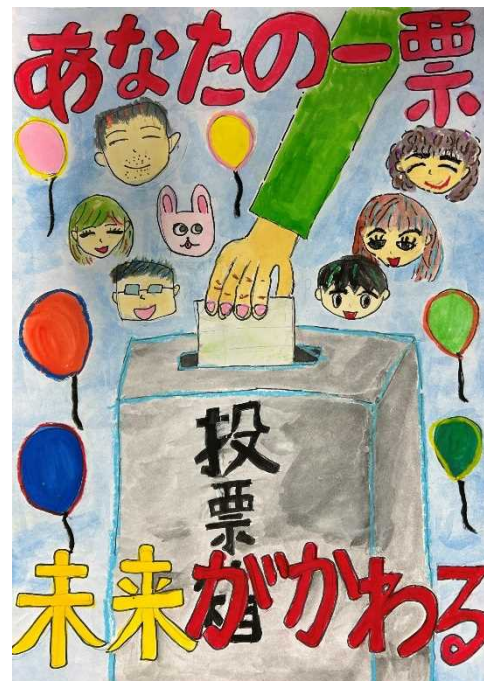
小1 宮崎市 藤木 智子



小2 高千穂町 大脇 穂奈美



小3 宮崎市 黒木 友也



小4 日南市 横山 琴音

令和5年度明るい選挙啓発ポスター作品（特選作品）



小5 宮崎市 増田 彩乃



小6 日南市 山下 胡桃



中1 西都市 菊池 彩香理



中2 延岡市 渡部 琴葉

令和5年度明るい選挙啓発ポスター作品（特選作品）



中3 延岡市 永友 はずき



高1 西都市 安藤 ひより



高2 えびの市 内村 実月



令和5年度明るい選挙啓発書道作品（特選作品）



小1 宮崎市 富浦 愛香



小2 三股町 池田 大星



小3 宮崎市 矢野 結愛



小4 宮崎市 丸田 萌寧

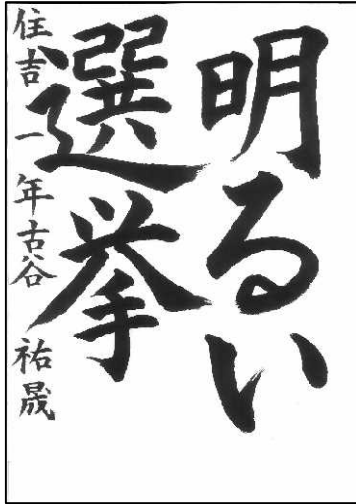


小5 宮崎市 姫野 陽菜



小6 宮崎市 中西 莉央

令和5年度明るい選挙啓発書道作品（特選作品）



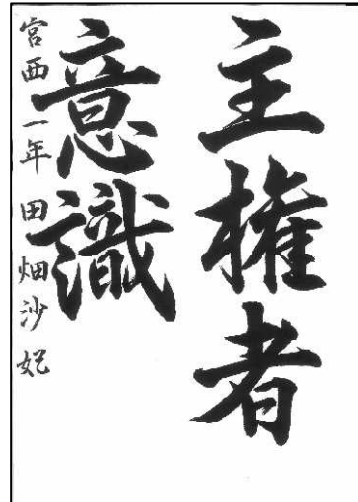
中1 宮崎市 古谷 祐晟



中2 宮崎市 小平 英奈



中3 新富町 田村 妃菜



高1 宮崎市 田畑 沙妃



高2 宮崎市 中 紗和子



高3 都城市 西 那菜子

### ③ 政治と選挙を学ぶ「Voter's Seminar」(ポーターズ・ゼミ)

宮崎県立日南高等学校をモデル校とし、「公共」の授業を利用して、地域課題に対する解決案の検討と選挙体験を組み合わせる形(全3回)で実施しました。

#### ○内 容

回	日	時間	内容
第1回	10月16日 (月)	4限目 11:35-12:20	①選挙や政治参加の意義に関する講義 (講師:宮崎大学 吉村教授) ②日南市の課題に関する講義 (講師:日南市総合政策課職員) ③グループワーク(課題解決案の検討)
第2回	10月20日 (金)	3限目 10:40-11:25	④各グループの発表 ⑤投票前の注意
		昼休み	⑥投票
第3回	10月23日 (月)	4限目 11:35-12:20	⑦結果発表 ⑧ふりかえり・講評

#### ○参加者

宮崎県立日南高等学校 普通科探究科学コース 2年生 39名



## ④ 若者に届く！届ける！選挙啓発動画作品コンテスト

様々な視点や柔軟な発想により、視聴した若者が政治や選挙について考えるきっかけとなる動画作品を募集するコンテストを実施しました。

- テーマ 選挙～未来を考える「押し活」～ ※15秒～30秒程度
- 対象 県内に在住又は通学している高校生以上の個人又はグループ
- 応募期間 令和5年8月14日（月）から10月31日（火）まで
- 応募総数 16作品
- 審査結果

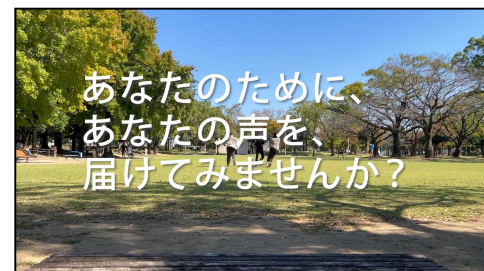
【最優秀賞】 応募者：team13（宮崎マルチメディア専門学校）  
タイトル：選挙は手ぶらで大丈夫！



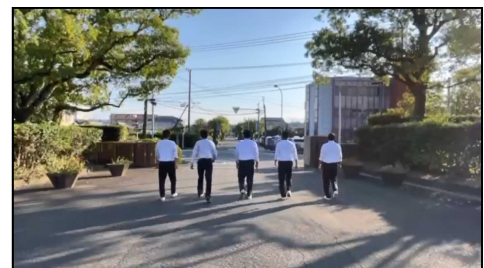
【優秀賞】 応募者：選挙啓発部ライツ（宮崎公立大学）  
タイトル：選挙で押し活



【優秀賞】 応募者：しそゆり（宮崎マルチメディア専門学校）  
タイトル：あなたのために



【奨励賞】 応募者：3年5組（宮崎県立高鍋高等学校）  
タイトル：若者の一票で未来を変えよう。



## ⑤ 第18回わけもんの主張

若者が選挙や政治に対し、日頃考えていることや感じていること、求めていることについて意見発表することにより、有権者又は有権者になる者として政治や選挙に関する認識を深めてもらうとともに、県民の明るい選挙推進運動に対する意識の高揚を図ることを目的として実施しました。

○意見発表者（発表順）

支会	氏名	市町村・職業・演題
東白杵	ほしかわ たつや 星川 達哉	諸塚村（諸塚村職員） 「正しい未来を選択するために」
西諸県	こうじたに はな 糺谷 葉和	小林市（小林市職員） 「選挙についてわけもんとして考えたこと」
児湯	いのうえ せんり 猪上 千凜	川南町（川南町職員） 「選挙、それは幸せになるための一歩」
都城 北諸県	ちょうそかべ はるか 長曾我部 春蘭	都城市（高校生） 「有権者まで後1年」
宮崎 東諸県	さかい あやか 酒井 彩花	宮崎市（大学生） 「期待した未来をつかむために」
西白杵	なかやま ともき 中山 智貴	日之影町（日之影町職員） 「未来を担う若者の声で、政治をかえる」
南那珂	よしおか ひなた 吉岡 陽向	日南市（高校生） 「無意味もとい勘違い」
宮崎 東諸県	やの くるみ 矢野 旬瑠未	宮崎市（大学生） 「未来を決める方法の一つ」

【最優秀賞】中山智貴さん



【優秀賞】酒井彩花さん



## 正しい未来を選択するために

東臼杵支会代表 星川 達哉

「人生は選択の連続である」。イギリスの劇作家であるウィリアム・シェイクスピアの代表作『ハムレット』にある非常に有名な一文です。どんな服を着ようか、何を食べようか、といった小さな選択や人生における大きな決断を無意識かつ意識的に多くのことを選択しています。こうした選択の積み重ねが人の人生を形づくり、人が集まれば、組織、社会やがては国家が形成されていきます。私たちが選択をするにあたって、取捨選択の基準には、「幸福になること」、「より豊かになること」が挙げられます。これらは人の潜在的な欲求に起因するもので、誰しも当然の理です。そして、国が幸福になること、豊かになることが政治の役割であり、その基礎となるのが選挙制であり「選択」です。

さて、現在では多くの国々で政治形態として採用されている民主主義であります。私たちの国日本もその一つです。古くは古代ギリシャのころから政治思想として認知はされていたものの、長らく君主制や貴族制といった一部の人間が権力を掌握し、多くの国民は政治に参加することはできず、民主制は衆愚政治と揶揄され否定されていました。その後、政治の腐敗や啓蒙思想による自由主義の萌芽などを皮切りに、血で血を洗う革命の末、欧米諸国では議会政治が導入され法の支配の元、民主制が徐々に普及していきました。しかし、列強国の侵略や世界恐慌などの混乱により政治への不信感が高まり、社会主義やファシズムの台頭も重なり、人類は二度も世界を二分する大きな戦争を引き起こしました。こうした歴史も人類が選択した結果と言えます。

こうして、終戦からおよそ80年が経過し世界のほとんどの国々が民主制を採用しています。しかしながら、ロシア・ウクライナ戦争やイスラエル・パレスチナ紛争などそれぞれの大義があるのですが、幸福とは言えない現状に直面している地域も少なくありません。わが国でも、これらの紛争を起因とする物価高騰や少子高齢化など数えきれないほどの問題を抱えています。また、連日のように政治家の不祥事に関する報道や民意が十分に反映されているのか疑問のある法律の制定など政治への不信感は日に日に増しているように感じます。最近では安倍元首相の暗殺といった最悪の形で露呈することになりました。

民主政治は万能ではありません。残念ながらすべての人類を幸福にすることは叶わないかもしれません。それでも私たちは選択しなければなりません。私たちを取り巻く様々な課題がどんなに複雑で困難であろうと、考え、過去に学び、それでも分からなければ誰かに教えてもらったり、みんなで考えたり、そして解決策をあるいは解決に導いてくれる人物を選ばなければなりません。時には私たちは結果として誤った選択をしてしまうかもしれません。選ばれた私たちの代表が間違いをしたのならば、その一方で選んだ私たちにもその責任があるでしょう。私たちは正しい選択をするために、日常から得られることを経験として吸収し、時には歴史を手本として学び、現代の氾濫する情報の山から正確なものを見極め、自らの選択の判断材料としていかなければなりません。より幸福で豊かな人生を望むのであれば私たちは選択することを放棄してはいけません。私たちが参加したところで政治が良くなるかは正直なところ分かりません。しかし、参加しなければ決して良くなることだけは分かります。

私は、過去に自分たちの幸福と次の世代の人々のために選択をしてきた人々に倣い、今を生きる私たちの世代と未来の子供たちが幸福で豊かな人生を送ることを選択します。

## 選挙についてわけもんとして考えたこと

西諸県支会代表 糀谷 葉和

私は政治・経済に興味を持っておらず18歳になるまでは選挙に行くことすら考えていませんでした。選挙権が18歳になるかもしれないと聞いた時には、正直自分には関係ない、おそらく行かないだろうと考えていました。その後、選挙権が18歳になり、学校の授業でも選挙について考える時間が設けられました。そして、去年18歳の誕生日を迎えた頃、ちょうど宮崎県知事選挙がありました。学校でも選挙の話題が少しずつ増えていきました。その時に、初めて選挙に行ってみたいと感じるようになっていきました。自分で候補者の政策を見てみたり将来のことを考えてみたりなどすることが増えました。私のクラスでは話題になりましたが、ほかのクラスではあまり話題にならなかったようでした。私自身もクラスで選挙の話題になっていなければ、選挙自体に興味を持てなかったのではないかと思います。あの雰囲気があったからこそ、できたことだと思います。

また最近、私自身テレビを見るという機会が減り、最近の出来事やニュースについてはSNSだったり周りから聞いた事だったりで得ることが多くなりました。今ではSNSから多くの情報をネット上で得ることが出来ます。私の友人も同様の意見でした。私は普段ニュース番組を見ていませんが、その分youtubeやTikTok、Xから最近の出来事を情報として入手しています。若者が普段から身近にあるSNSで選挙に興味を持てるようなきっかけ作りがあると、選挙について興味を持ってもらうことができるのではないかと思います。

選挙で投票をする若者を増やすためには？まずは選挙自体に興味を持つ必要があります。では選挙に興味を持つ若者を増やすためにはどうすれば良いのでしょうか？

私の考えとして、1つ目は、周りの雰囲気が大事ではないかと思います。私自身も選挙に行こうと思えたのは周りの友人・クラスメイトが選挙について興味を持っていたからだと思います。1人でも多く選挙について興味を持つことで周りを少しでも巻き込むことが出来るのではないのでしょうか？そのために、学校の授業でも選挙について考える時間も必要だと思います。授業を通して選挙について学び、投票に行くことで私たちでも政治に参加できるのを実感するのが大切だと思います。

選挙に行っておらず私には関係ない、どうせ私が1票入っただけでは何も変わらないという考えを持っている人は1度でも選挙に参加をしてみてください。考えが変わるかもしれません。

そして2つ目です。若者が普段から使用するSNSで政治の状況について発信していくことです。私自身も興味を持ったものに対しては、自ら調べてみるがあります。いざ調べてみると意外と興味深いものがありますが、誤った情報もあります。そのため現在のSNSの状態では正しい情報を見極める必要があります。日本の政治の現状について、正しい情報を発信するサイトやアカウントが整備されれば幅広い年代でも正しい情報を得ることが出来るのではないかと思います。

最後に私は、学生時代に生徒会選挙の選挙管理委員会を務めたことがありました。実際に選挙に携わってみて、いろんな人の手によって選挙がなりたっているのだと改めて感じ取



れました。特に高校の時には、実際の選挙に寄せるため市役所より投票箱をお借りし、学生証で本人確認して投票するという流れをとっていました。投票所では、声を出すことが禁止されており、緊迫した空気の中で投票したのを今でも覚えています。その経験があったからこそ18歳になってから、初めて実際の選挙で自分の意思を持ち、投票することができたと思います。

選挙に行かないことは、自分の未来を捨てていると言っても過言ではないと思います。なぜなら、選挙によってこれからの日本の未来に繋がるとも言えるからです。みなさんも、自分の未来を捨てるのではなく良い未来をあなたの投票によって拾ってみてはどうでしょうか？

ご静聴ありがとうございました。

## 選挙、それは幸せになるための一歩

児湯支会代表 猪上 千凜

選挙と聞いて、皆さんはどう思うでしょうか。「難しい」、「面倒くさい」など、堅苦しいイメージがあるのではないのでしょうか。非常に分かります。なぜなら、私自身も同じ思いだったからです。

私が初めて選挙に参加したのは十八歳の時、公職選挙法の改正で選挙権年齢が十八歳に引き下げられた年でした。冒頭にも申したとおり、「難しい」、「面倒くさい」この思いの中で両親に連れられ、選挙会場に向かいました。しかしそこで目にしたのは、私と同年代の方が記載台に立つや否や、投票用紙にスラスラと立候補者の名前を書き始めた後姿でした。その一方で、私は誰に投票すれば良いか分からない、そもそも立候補者を知りませんでした。その時、急に罪悪感に駆られたと同時に、日頃から新聞やニュースを通して少しでも選挙に関心を持っておけばよかったと悔しさと情けなさでいっぱいでした。社会人となった今改めて振り返ると、若者の選挙への意識の違いがああの場面で明確になること、それから、選挙に行く前に立候補者それぞれの政策等を吟味した上で投票していれば、自分の意思が少しでも反映されて、生活にもたらす良い影響があったのではないかとつくづく痛感しています。

近年、日本の若者の投票率は世界全体でみても低い現状にあります。そうした中で、公職選挙法改正により選挙権年齢が十八歳に引き下げられたのはなぜでしょうか。その背景には、少子高齢化が進む現在、未来の日本を生きていく若い世代に、日本のあり方を決める政治に関与してもらいたいという意図があると思います。

では、多くの若者が抱く「難しい」、「面倒くさい」という思い、「投票したって意味がない」という無力感を払拭するべく、いかに政治を身近に感じ、選挙に導くためにはどうすれば良いか。その大部分を解決できる方法が、教育にあると私は考えます。

今の学校では、政治や社会の仕組みを授業の中で勉強することはあっても、現実的な政策課題や選挙の争点などについて、自分事として捉えて具体的に討論する機会が少ないのではないのでしょうか。私は選挙自体に関心を持ってもらうためには、座学で知識を習得するだけでなく、実際に経験して自分事として捉えることも必要ではないかと考えます。例えば、模擬選挙を実施する学校が最近増えています。川南町内の学校では、好きな給食のメニューをお題として、実際の選挙と同じ形で投票する模擬選挙を実施しています。さらに、どの学校でも実施されている生徒会選挙は身近な選挙です。授業だけで扱うのではなく、そのような活動に若者が参加することで当事者意識を持ってもらうことが必要であり、将来にかかわる大変素晴らしい経験になると私は思います。

今の若者の方々にお伝えしたいことがあります。何不自由のない生活を送りたい、生きやすい社会であってほしいなど、望んでいることがたくさんあるのではないのでしょうか。まずは選挙に行ってみましょう。候補者の中には、自分が望む社会をつくってくれる人がいるかもしれない、さらには若い世代が投票に行って投票率を上げることによって、この社会を何か変えられるかもしれない、選挙にはたくさんの可能性が秘められていると思います。

たかが一票されど一票。自分の一票に誇りを持ちましょう。その一票を投じることが、自

分の思い描く幸せになるための大切な一歩となる、私はそう信じています。

若者だけでなく、国民総出で選挙には意味があることを世の中に発信していきましょう。  
そうすることで、明るい未来が切り開かれることを心から願うばかりです。

## 有権者まで後1年

都城北諸県支会代表 長曾我部 春蘭

「有権者まで後1年。」

私はこの言葉を聞いて、ゾッとしました。なぜなら、私が思う議員さんたちのイメージは日頃からニュースで多く取り上げられている議会での居眠りや消費税の増税、お金に関する疑惑等の行動により私の中で良いイメージはありません。そもそも選挙に関してしっかりと知識ありません。そんな中で、この現代では、若い世代の意見を反映させたいからと言って選挙権を20歳から18歳に引き下げられましたが、私の父は20歳になった当初選挙に興味がなく、選挙に行かなかったそうです。選挙に行き始めたのは母と結婚してからだそうです。

このように、父の時代でも興味がないなどの理由で選挙に行かなかった人は少なくないはずですが。だとしたら、選挙権を引き下げても今も昔も選挙に行く人は現状通り変わらず、むしろ減少傾向にあるのではないかと思います。減少傾向にあるということは、政治に対して興味を示す若者が減っており、それにより若い世代の意見を取り入れることが困難となっているということではないでしょうか。

減少する理由の一つとして、選挙のことをよく理解していない若者が選挙に投票しても、良い結果は生まれないという考えがあることです。私が疑問に思うのは、議員さんが考える若い世代の意見とはどういうものなのかということです。その点をお互いに理解し合うことができれば、より良い選挙を実現できるのではないのでしょうか。だからこそ、議員さんたちは公約を演説し、私達国民がそれを応援して票を入れたとしても「ちゃんとその公約のために動いてくれているのか。」「その公約にかなった行動をしてくれるのか。」どの世代も不安になっているのではないのでしょうか。

実際、議員さんの仕事の取り組みや選挙の仕組みのことをなにも知らない状態で、「選挙に行こう!」と言われても、なにもわからない状態で取り組みに参加したところで無駄になってしまうだけだと感じます。選挙カーの上で笑顔で手を振りながら「〇〇をよろしくお願いします。」という光景をよく目にします。愛想よく挨拶をしているだけでその人の何がわかるのでしょうか。名前ですか。顔ですか。いいえ、違います。私達が最も知りたいのは、名前でも顔でもありません。その人が当選して何を行いたいのか、そして何を私達のために成し遂げてくれるかです。『政策』です。

議員さんに立候補する人の政策も知らずに、投票してもこれこそ意味のない投票であり、若い世代の意見どころか全世代の意見をも取り入れていないと思います。

私は、生徒会選挙に立候補し生徒会長という役を成し遂げることができました。私が掲げた公約は『各委員会の仕事の見直し』でした。この公約を掲げ、各委員会の情報伝達や成果の報告を全校生徒に随時知らせ学校全体が情報の共有をすることができたと思っています。それを、間近で実感できたこと、人と人との協力がなければできなかったことなどを知る機会になりました。また、色々な行事に新しいものを取り入れて、今までにない行事へと変えることができたと自負しています。

しかし、学校の生徒の皆さんは私の意見とは別の評価をしている方もたくさんいます。学

校という小さな社会の中でもそう思っている人はたくさんいるのに、全国民となるとその差は、歴然だと思えます。

だからこそ、選挙に立候補する方は公約以上に説明・責任が重要になってくるのではないかと私は思います。皆さんが十分に理解できるように良き選挙を行うために。私はそう考えます。私が選挙に行くときは、立候補者一人ひとりの公約や政策を見て、この人なら未来の日本を任せられる人に投票したいです。

## 期待した未来をつかむために

宮崎東諸県支会代表 酒井 彩花

「若者は政治に無関心だ」よく耳にする言葉である。だが、今の10代は学校での模擬選挙や主権者教育を通して、関心はあるけれども、今の政治に期待をしていないだけではないだろうか。正直、今の政治が若者を失望させ、勝手に無関心だと言っているように思える。私は、そんな日本の若者たちに伝えたい。選挙に行っても行かなくても「たかが一票では何も変わらない」と思っているのなら、選挙に行くべきだ。なぜなら、政治が分からなくても、選挙公報を読んでみたり、街頭演説をしているあの人の活動に興味をもったり、この人に託してもいいかもというほん少しの気持ちが、今の日本を変えることができるから考えるからだ。そうでないと、今のままでは日本は変わらないどころか落ちていくだけではないだろうか。

いわゆるZ世代と呼ばれる私たちは、SNSを通して様々な情報を得て、自由な意見を気軽に交し合っている。私自身、SNSを通して多様な意見から新たな発見をすることもあり、非常に面白く感じる。中には、物価高騰への政府の対策や増税などへの政府の動きに対する厳しい意見も多々見られる。ネットニュースに取り上げられた政治問題に対して、SNS上で自分の意見をぶつけ合っている様子を見ると、やはり若者たちは今の日本へ十分な関心をもっているように思える。ただ、私たちは政府にばかり責任を押し付け、受け身になりすぎたのかもしれない。せつかく自分の主張をもっているのだから、ぜひ政府に届けてほしい。そのためのもっとも簡単な手段が「投票」なのである。「今の政治に不満があるなら自分で政治家になれ」なんて誰もそこまでは求めていない。

私の高校では模擬選挙というものがあつた。参議院選挙の実施にあわせ、実際の立候補者や政党に投票をした。このときに、初めて選挙公報というものを手にし、クラスメイトは投票する人を選ぶべく、真剣に選挙公報を読んでいた。友人とも、どんな政策をしているか、この人の所属する政党はどんな公約を掲げているか、など話し合ったりした。私は、当時高校2年生で選挙権をもっておらず、やはり子どもの意見だけではどうにも難しいと感じた。そこで、実際に選挙権をもつ母や姉にどういう基準で投票者を選んでいるのかを聞いてみた。すると、忙しくて選挙公報も読めていないし、誰に投票しても同じだという言葉が返ってきた。このとき、きっと大人も政治に興味関心のある人ばかりではないし、大人にとって選挙はそれほど優先されるものではないのかという驚きが大きかった。

人々が選挙に行かない理由のひとつには、ハードルの高さがあると考えられる。選挙公報に書いてある公約が明確でなかったり、私たちの身近なものでなかったりして、やっぱり自分には難しいと感じる人も多いただろう。それにそもそも、忙しい大学生や社会人にとっては、びっしりと字で埋め尽くされ、よくわからない選挙公報など、読む気にもなれないというのが本音ではないだろうか。実際に、私が初めて投票に行く際に候補者を念入りに調べた。選挙公報だけではこの人が具体的にどんなことをしてくれるのかが分からず、ネットで調べることにしたのだ。ネットには全候補者の公約がまとまっているものは無い。一人ひとり調べると、ホームページ等に掲載している人もいたが、それはほんの一部で、61人の候補者のうち48人はネット上では公約を見ることができなかったのだ。結局私は、一番公約が明確

で、身近に感じた候補者に投票した。だが、本来選挙とは、この人に期待したいという強い気持ちで投票するものなのではないかというイメージとのギャップを感じ、ショックだった。そして、きっとどの世代も「こんな曖昧に選んでいいのか」という気持ちは同じだろうと考えた。「誰を選んでも同じだから」という言葉も、大人たちからよく聞く。これは、誰が当選しても、大して日本の現状は変わっていないからだと思う。正しくは、実際に変わっていないわけではないが、政府の実績は国民には届いていないからなのではないだろうか。

これらのことから、私は立候補者と政治家の方々をお願いしたいことがある。それは、①公約をSNSやネット上でわかりやすくまとめる、②実際の活動の様子をSNSで発信する、③選挙時に掲げた公約の達成度を定期的に報告する、この3つである。日本のために活動する皆さんには、日本の将来のために、若者の政治参加と投票率アップを目指して、ぜひ私たちのために協力してもらいたい。

若者の政治や選挙への興味関心の問題は、もはや若者だけのものではない。誰もボロボロに廃れた母国など見たくないはずである。だから、若者に限らず、垣根を越えたすべての国民の力で、少しずつ日本の未来を明るい方へ導きたい。一票の積み重ねが、確実に日本を変える。

## 未来を担う若者の声で、政治をかえる

西臼杵支会代表 中山 智貴

みなさんは今の日本をどのように感じていますか？

先進国日本、豊かな国日本、平和な国日本、これらは私が幼い頃からよく耳にしてきた日本を表す言葉です。

しかし、私は今の日本はかなり厳しい状況にあると思います。

少子高齢化はもちろん、経済の面では、GDPがアメリカ、中国に次いで3位であったのが、日本はドイツに抜かれ4位に後退すると言われてしています。

また、日本は中国、北朝鮮、ロシア等に囲まれており、安全保障の面においても今後より一層厳しさが増すことが考えられます。

このような厳しい状況の中で、政治の担う役割は極めて大きいと私は思います。政治次第で、日本の進む道、将来が決まり、強いては私たちの生活に関わると言っても過言ではありません。ウクライナやイスラエルでの紛争を目の当たりにし、当たり前前の日常がどれほどありがたいことか痛感しています。

その政治に対して、私たちの声を届け、意見を反映させられる最大の機会が「選挙」です。

国会議員をはじめとする政治家は国民の代表と言われていますが、そうではなく、選挙に行った人の代表だと私は思います。少子高齢化により、若者よりも高齢者の人口が圧倒的に多く、高齢者は選挙によく行きますが、若者の投票率は低いままです。その結果、日本の政治はシルバーデモクラシーという高齢者に有利な政治が行われていると言われてしています。

しかしこのような状況下でも、今後の日本を支えるのは若者です。私は日本の未来を担う若者に対し、十分なバックアップ、支援が乏しいという矛盾した状況にあると強く感じています。

学生であれば、受験、就職活動、子育て時期であれば、保育所や育児費用、そして、将来的には年金や介護など、「いま」と「これから」を生きていくうえでの問題や不安は様々あります。でも、ただ現状に嘆いているだけでは何も変わりません。

若者の皆さん選挙に行きましょう。みなさんの声で政治を変えましょう。

若者のための政策を国会や地方議会で実現させるには、投票を通じて若者の存在を意識させることが一番重要だと思います。

若者の投票率を上げるためにも、小学校教育の場においては主権者教育を積極的に導入し、模擬選挙など子どもの頃から政治参加や意思決定の習慣化を身に付けていくべきだと思います。それが未来の有権者を育てることに繋がるのではないのでしょうか。

また、選挙でのインターネット投票などをマイナンバーカードを活用し本格的に検討すべきだと思います。

私は役場へ入庁し、これまで何度か選挙事務に従事させていただきました。投票所へいらっしやる有権者の方の中で、選挙権を持たない子供を連れて家族みんなで投票に来る人を見て、個人的にすごく良いな、と憧れを感じました。

実際に、親子連れ投票は子供の将来の投票につながっているというデータもあります。私が親の立場になったら、子供を連れて選挙に行きたいと思っています。そしてそんな光景が



日本でももっと当たり前になったらいいなと思います。

これからの日本を担い、未来を生きる者として、長期的な視点でどのような日本になってほしいか、投票という手段を通して表明することは私たち若者世代の義務であり、大きな責任だと思います。

たかが一票、されど一票。私たち若者の一票の積み重ねで日本は変わります。

だから、私は次の選挙にも必ず行きます。

若者のみなさん、一緒に選挙に行き、より良い日本の未来をつくっていきましょう。

## 無意味もとい勘違い

南那珂支会代表 吉岡 陽向

「投票率が年々減少傾向にあります」そんなことは飽きるほど耳にしてきた。

多数の解決案が学生から挙げられる中、私はどれもピンときていなかった。

SNSを利用した広報も人の目に触れる機会が増えるが、目に触れたからといって詳しく調べようとは思わないだろうし、学校教育で取り上げ話し合うことで理解を深めるといふ意見も知識としては頭に入るが興味がなければ受け身の授業となんの変わりもない。

私は初め投票率が低いなら選挙を義務化すればいいのにと考えていた。

実際にいわゆる“義務投票制”を行っている国は多数あり、オーストラリアでは、正当な理由なく投票しなかった有権者に罰金を科している。その結果、50%ほどだった投票率が制度を導入してからは90%台へと変化し、以来高い投票率を維持し続けているのだ。

まあ罰金となれば投票率が上がるのはあたり前なことだが。果たしてこれで国民の政治への関心は高まったと言っていいのか。

投票率が上がるのはいいものの、こんなのただの見せかけにすぎないのでは？政治に無関心で十分な知識もない人が適当に投票するようなことがあれば全くもって無意味だ。むしろ政治内容や公約を無視した、ただの人気投票と化し、不適切な結果となることも考えられる。自分の一票くらいじゃ何も変わらないと考える人はいるが、そんな人が何千人といたら結果はどうなる？これも立派なバタフライエフェクトだ。

じゃあオンライン投票にすれば？とも考えた。投票に行かない人の理由に忙しく会場に足を運ぶ時間がないという意見多くがある。行動が不自由な人もオンラインなら参加できるし有権者数も上がるだろう。だが調べると現時点では、データ上なので本人が打ち込んでるのかわからないなどの様々な問題点があり実現には程遠いそうだ。

じゃあ結局どうすればいいのかー。

宣伝だの投票体制の改善だのするよりも、私は根本的に選挙に対する概念を変えさせることが一番先だと思う。

国民はなにか勘違いをしている。我々は「投票しなくてはいけない」ではなく「選ぶ権利をもってる」。

選挙は誰のためのものか。それは間違いなく私達一人ひとりのためのものだ。そもそも選挙とは自分たちの生活や社会を良くするため私達の意見を反映させそれを成し得る代表者を選ぶことだ。つまり投票しない人は自分の国が今後どんな方向に進んでいこうとも一切文句は言えない、まして関心もなく投票にも行かないのに批判だけするなんてもってのほかだ。

これは自論だが、選挙に関心のない人は何をしたらって興味を持つことはない。

そんな彼らも「高齢化問題により65歳になったものは無条件で逝去しなくてはならな

い」という法律案が国民の投票によって決まるとなればどうだ。まったく無関心ではいられないだろう。ようは自分に影響するかしらないかだ。つまり問題は自分の一票が自分の人生になんら影響はないという考え方そのものにある。結局、こんな考えを持つての間は、そちら側がどんな施策をしようと無意味になるだろう。

「選挙に行こう！」というポスターや投票率低下のニュースはまるで選挙は行っても行かなくてもいいという概念を植え付けてるようにはしか思えない。

皆さんは今までに「部屋に入るときは靴を脱ぎましょう！」というポスターを玄関で見たことはあるだろうか？いやないだろう。じゃあなぜ皆さんは部屋に入るとき靴を脱ぐのですか？床が汚れるから？別に脱がなかったからといって罰せられることもないのに。靴を脱ぐという習慣が定着している日本では、それはあたりまえであって何の疑問を持つことなく行ってきたものだ。

それと同じように、「義務だから」とか「呼びかけられているから」選挙に行くのでなく、当たり前前行動として投票を行う世の中を作り上げればいい。`一票の重み`だなんて言葉を使うつもりはない。投票率が上がるのがゴールじゃない。国について自分ごとのように考えてほしい。投票はあくまでそのきっかけに過ぎないのだ。

様々な施策を無意味にしないよう、最も効果的なのは能動的な意識の転換、間違った概念やその勘違いを正すところからじゃないのかと私は思う。

## 未来を決める方法の一つ

宮崎東諸県支会代表 矢野 句瑠未

「投票に来てくれてありがとう。」これは私が18歳になり、初めての投票で受け付けの係員の方に言われた言葉です。皆さんはこの言葉を聞いてどう思いますか。私はこの言葉を聞いたとき違和感を持ちました。「どうして投票をただけで感謝されるのだろう。」と。その時初めて私は「若者の投票率の低さ」を実感しました。この言葉を聞いたとき、違和感を持った人はどのくらいいるのでしょうか。きっと多くの人が「若者の投票率は低いからね。」と納得するのだと思います。それは大人に限らず、私たち若者もそうでしょう。しかし、若者は尚更、この言葉に違和感を持つべきだと私は考えます。

現在の宮崎の18～19歳の投票率は約20%で、20～24歳の投票率も同じく約20%です。選挙権が引き下げられても、その年代の2割未満の人しか投票をしていません。また、投票率の低さは若い世代が突出していますが、かといって他の世代の投票率が高いわけでもないのです。55～59歳で初めて投票率が50%を超えるということも問題だと思えます。子供に投票の大切さを教えられる一番身近な親世代が半数も投票をしていないのだから、子供たちの投票率が下がるのも当たり前ではないでしょうか。ではなぜ、投票率が低いのか。これについては様々な意見があります。「投票に行くのが面倒」、「学生は地元に住み票が残ったままで手続きが複雑」、「投票しても何も変わらないと思っている」、「政治の話は難しくてわからない」などです。こういった様々な意見がありますが、私は選挙権の大切さを理解していないことが一番の原因だと思えます。選挙権とは何でしょうか。選挙に参加できる権利でしょうか、それとも国や県の代表を選ぶ権利でしょうか。そうではありません。私は、選挙権とは私たちが未来を決める方法の一つだと考えます。そうは言っても、自分たちの未来と政治とそこまで関係があるようには思えないという人もいるでしょう。テレビの中の政治は自分の生活とはどこか遠くにあるように思えます。しかし、政治は確かに私たちの生活の中にあるのです。新型コロナウイルスが流行したことで、それを実感した人も多いのではないのでしょうか。度重なる緊急事態宣言で学校や職場に通えない、学校行事の縮小、マスク生活など政治の影響を大きく受けた生活だったと思えます。このように、政治は私たちの生活と全く関係のないものではないのです。日々の生活ではあまり感じられない政治も、新型コロナウイルスのような大きな問題が起こればはつきりと顔を現すことを私たちは知っています。その時になって、もっとこうしてほしい、どうしてそんなことをするのだと文句を言っても遅いのです。確かに、私たちの未来を創るのは私たち自身ですが、その未来の生活も、そこにたどり着くまでの生活も、少なからず政治の影響を受けない瞬間はありません。

私たちは、実現したい未来が実現しやすい世の中を創らなければなりません。しかし、残念ながら世の中を変える力をすべての人が持っているわけではありません。でも、選挙権ならば18歳で全員が持つこととなります。それは、私たちの未来に影響する政治に、私たちが影響を与えられる最も簡単な方法で唯一の方法ともいえるものです。それを、私の一票なんて、または、面倒くさいといった理由で簡単に放棄してしまっているのでしょうか。政治が難しくてわからないのであれば、現代では質問に答えていけば自分に合った政党や立候

補者を出してくれるサイトもあります。投票したい人がいないというのであれば、白紙投票をしてその意思を伝えることもできます。一つ一つは小さいかもしれませんが、積み重なっていけばおのずとその力は大きくなります。実際に反映されるかわからない、けれど、反映される可能性はゼロではありません。その可能性がゼロになるのは、私たちが選挙権を放棄したときのみです。選挙権を放棄することは、私たちが自身の最善の未来をどうせ実現できないと諦めていることになり変わりありません。しかし、私たちは未来を諦めているわけではありません。ただ、その未来を実現する方法の中に「選挙権」という手段が入っていることに気づいていないだけなのです。多くの人がそのことに気づき、選挙権を活用し、投票をして感謝されるのではなく、誰もが最善の未来へ向けて行動した自分を誇れるような世の中になることを願います。

## **(2) 研修事業**

### **① 若者リーダーフォーラム（九州ブロック）**

近年の若年層の投票率の低下傾向を踏まえ、政治や選挙の大切さを認識してもらうとともに、参加者を通じた若年層への呼びかけや、明るい選挙推進運動への参画を目的とする。

- 開催場所 長崎県長崎市（出島メッセ長崎）
- 開催日時 令和5年12月10日（日）
- 参加者 なし

### **② 明るい選挙リーダーフォーラム（九州ブロック）**

九州各県の明推協会長等が一堂に集まり、各県の明推協活動の状況や問題点等を論議し、連携の強化や明推協活動の活性化を図ることを目的とする。

- 開催場所 福岡県福岡市（博多サンヒルズホテル）
- 開催日時 令和6年1月30日（火）
- 参加者 2名（明推協会長、事務局1名）

○研修内容（討議テーマ）

- (1) 明推協開催の各フォーラムの参加者募集について
- (2) 市町村の明推協の活動状況と活性化に向けた対応について
- (3) 家族そろっての投票を呼び掛ける取組みについて
- (4) 若年層に対する啓発事業について
- (5) 主権者教育とこれからの明推協の活動について
- (6) 選挙出前授業について

### ③ 地域コミュニティフォーラム（九州ブロック）

近年の投票率の低下傾向を踏まえ、特に若年層を対象とした啓発手法等を検討するとともに、選挙啓発活動全般の活性化を図ることを目的とする。

- 開催場所 大分県大分市（大分県労働福祉会館ソレイユ）
- 開催日時 令和5年10月20日（金）
- 参加者 なし

### ④ 九州各県選挙管理委員会職員選挙事務・選挙啓発研究協議会

九州各県の担当職員による選挙事務・選挙啓発に関する協議と情報共有を行うことを目的とする。

- 開催場所 佐賀県佐賀市（グランデはがくれ）
- 開催日時 令和5年8月22日（火）
- 参加者 2名（事務局のみ）

○研修内容（討議テーマ）

- （1）選挙期日の決定方法等について
- （2）県議会議員選挙における選挙長事務等の役割分担について
- （3）県議会議員選挙後における選挙長事務所設置の考え方について
- （4）解散に伴う衆議院議員総選挙の際の物品調達について
- （5）市区町村分の懸垂幕の作製について
- （6）立候補者の性別・生年月日の公表について
- （7）ポスター掲示場のインターネット公開について
- （8）県議会議員一般選挙における選挙のお知らせの対応状況について
- （9）点字による選挙のお知らせ版の選挙公報全文掲載について
- （10）速報内容の見直しについて
- （11）選挙運動費用収支報告書の形式審査について

- (12) 選挙の記録の作成について
- (13) 県議会議員一般選挙における市町村交付金について
- (14) 臨時啓発費の執行経費算定上の取り扱いについて
- (15) 県議会議員選挙における選挙公営の支払い体制について
- (16) 不在者投票特別経費の支払事務について
- (17) 県管理の選挙と市町村の選挙が同日に執行された場合における不在者投票指定施設等における不在者投票に係る不在者投票特別経費の支払い方法について
- (18) 国政選挙に係る総務大臣表彰における被推薦者の選考基準について

## ⑤ 代表者会議・全国フォーラム

代表者会議において、これまでの明推協の取組と今後の啓発事業の展開について検討するとともに、全国フォーラムにおいて、各団体の取組を通じて常時啓発事業についての研鑽を深めることを目的とする。

- 開催場所 東京都千代田区（ホテルルポール麹町）
- 開催日時 令和6年3月4日（月）
- 参加者 2名（明推協会長、事務局1名）

### ○研修内容

- ・優良活動表彰受賞団体による活動報告
- ・意見交換「市区町村明るい選挙推進協議会の活性化」



### 3 その他の取組

#### ① 選挙出前授業の実施

選挙の意義や仕組み、投票の方法等に関する出前授業を県内の学校等で実施。

○実施団体数 33団体

【内訳】	小学校	中学校	高校	支援学校	大学・ 専門学校	その他	合計
県			1		1		2
宮崎市			5				5
都城市	2	5	3	1	1	2	14
延岡市		1		1			2
日南市		1					1
小林市		1					1
日向市				1			1
川南町	5						5
門川町		1					1
諸塚村		1					1
計	7	10	9	3	2	2	33

## (令和5年度選挙出前授業実施状況)

実施者	学校等名	対象者 (学年等)	対象人数	実施時期	時間(分)	内容	備考
県	宮崎大学	1年生	96	R5.7.12	60分	講義・討論	新入生オリエンテーション
	日南高等学校	2年生	39	R5.10.16	45分	講義・グループワーク	ポーターズ・ゼミ
	日南高等学校	2年生	39	R5.10.20	45分	グループ発表	ポーターズ・ゼミ
	日南高等学校	2年生	39	R5.10.23	45分	模擬選挙・講評	ポーターズ・ゼミ
宮崎市	宮崎南高等学校	3年生	350	R5.7.12	60分	講義・討論	
	宮崎顕学館	3年生	40	R5.9.4	45分	講義・模擬選挙	
	日章学園高等学校	全校生徒	1,364	R5.9.26	45分	講義	
	宮崎東高等学校(昼間部)	昼間部生徒	200	R5.11.7	20分	講義	
	宮崎農業高等学校	1年生	200	R5.11.15	50分	講義・模擬選挙	
都城市	上長飯小学校	6年生	113	R5.5.30	45分	講義	
	山之口小学校	6年生	43	R5.11.28	45分	講義	
	高城中学校	1~3年生	237	R5.9.13	50分	講義	
	山田中学校	1~3年生	174	R5.10.25	50分	講義	
	夏尾中学校	1~3年生	17	R5.11.6	50分	講義	
	五十市中学校	3年生	171	R6.2.16	50分	講義	
	志和池中学校	3年生	71	R6.3.7	50分	講義	
	都城工業高等専門学校	3年生	149	R5.6.28	45分	講義	
	高城高等学校	1~3年生	253	R5.9.19	30分	講義	
	都城商業高等学校	1・2年生	320	R6.2.1	50分	講義	
	都城きりしま支援学校	1~3年生	93	R5.12.12	90分	模擬投票	
	都城リハビリテーション学院	1年生	35	R5.5.31	90分	講義	
	株式会社九南	社員	24	R5.11.25	30分	講義	
	都城商工会議所	社員	11	R5.12.8	30分	講義	
延岡市	延岡しろやま支援学校	小学部	50	R6.1.15	30分	講義	
	延岡しろやま支援学校	中学部	51	R6.1.15	30分	講義	
	延岡しろやま支援学校	高等部	67	R6.1.22	30分	講義	
	延岡中学校	3年生	97	R6.3.11	30分	講義	
日南市	榎原中学校	1~3年生	22	R5.10.13	50分	講義・模擬選挙	
小林市	野尻中学校	3年生	50	R6.10.26	90分	グループ討議 (アドバイザー)	
日向市	日向ひまわり支援学校	全校生徒	67	R5.11.6	90分	模擬選挙・講評	
	日向ひまわり支援学校	全校生徒	67	R6.1.22	90分	模擬選挙・講評	
川南町	川南小学校	全学年	428	R6.1.11	90分	講義・模擬選挙	
	東小学校	全学年	123	R6.1.18	90分	講義・模擬選挙	
	通山小学校	全学年	169	R6.1.20	90分	講義・模擬選挙	
	山本小学校	全学年	76	R6.1.26	90分	講義・模擬選挙	
	多賀小学校	全学年	86	R6.1.25	90分	講義・模擬選挙	
門川町	門川中学校	全学年	487	R5.9.14	25分	講義	租税教室と同時開催
椎葉村	椎葉中学校	3年生	15	R6.3.7	20分	講話	

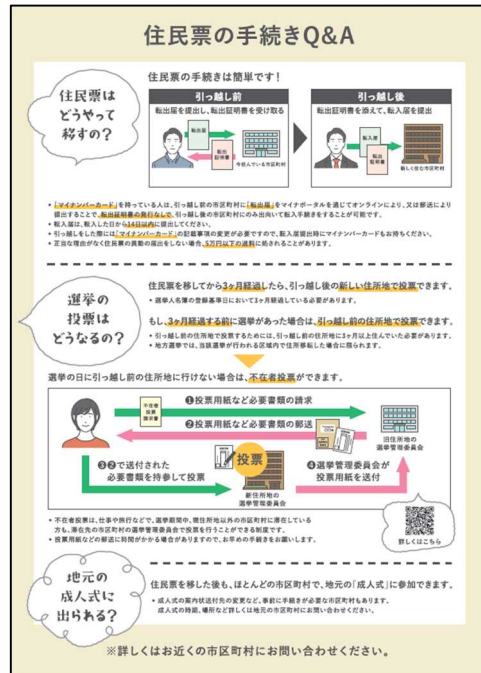
## ② 学校関係者への説明

各学校における主権者教育の充実に向け、宮崎県教育委員会等が主催する会議等の場において、選挙啓発の取組等について説明。

- 県立学校副校長・教頭会
  - ・ 開催日時 令和5年5月10日（水）
  - ・ 開催場所 ひなたサンマリスタジアム宮崎
  - ・ 対象 各県立学校の副校長、教頭
  
- 主権者教育推進リーダー研修会
  - ・ 開催日時 令和5年5月11日（木）
  - ・ 開催場所 ひなた武道館
  - ・ 対象 各県立学校の主権者教育推進リーダー

## ③ 住民票異動に関するチラシの配布

大学生等が住民票異動の手続きを行っておらず、現在住んでいる住所地で投票できなかったという実態を踏まえて総務省が作成した「住民票異動に関するチラシ」を各学校・大学等に配布。



## II 臨時（選挙時）啓発の取組

### 宮崎県議会議員選挙

令和5年4月9日に執行された宮崎県議会議員選挙において、投票を呼びかける数々の啓発活動を行った。

#### ○事業の概要

事業の種類	事業の内容	実施時期	実施場所等
白バラ贈呈	候補者に白バラと要望書を手渡し、明るくきれいな選挙を呼びかける。	3月31日 (金) ※告示日	立候補届出受付場所
懸垂幕の掲出	県庁舎等に懸垂幕を提出し、きれいな選挙の啓発と投票日の周知を行う。	選挙期間中	本庁舎・出先庁舎（9箇所）・宮崎山形屋
街頭啓発	学生選挙サポーター、みやざき犬、神楽めいすいくん等により各種商業施設にて啓発資材の配付、投票の呼びかけを行う。	選挙期間中	イオン延岡 SC、宮崎駅前、イオンモール都城駅前、イオン都城 SC、宮崎大学（入学オリエンテーションでの講話）、宮崎山形屋前、イオンモール宮崎
テレビ・ラジオによる広報宣伝	テレビ・ラジオを通じて、投票日等の周知、きれいな選挙の啓発と投票総参加を呼びかける。	選挙期間中	テレビスポット（15秒CM） MRT…60本 UMK…60本 ラジオスポット（20秒CM） MRT…20本 FM宮崎…20本
公共交通機関による広告	駅構内や路線バスの車内のほか、駅ビジョンによる広告により選挙日の周知を行う。	選挙期間中	JR駅構内、JR車両内、路線バス
新聞広告による広報宣伝	新聞広告を活用し、きれいな選挙の啓発と投票総参加を呼びかける。	4月1日(土) 4月9日(日)	「県政けいじばん」掲載（新聞5紙） 新聞広告（2紙）
啓発資材の作成、配布	啓発資材を作成し、県及び市町村選挙管理委員会を通じて有権者に配布する。	選挙期間中	B2ポスター 113枚 A2ポスター 1,500枚 A4チラシ 16,000枚 ポケットティッシュ 13,000個 アルコール除菌シート 8,000枚
インターネットによる啓発	Tver、YouToube、LINE等による情報発信、県選挙管理委員会のホームページを活用し、投票総参加を呼びかける。	選挙期間中	県選挙管理委員会ホームページ <a href="https://www.pref.miyazaki.lg.jp/senkyo/">https://www.pref.miyazaki.lg.jp/senkyo/</a>
その他各種啓発	テレビ、ラジオの県政番組等各種広告媒体の利用、啓発資材の活用など、様々な場所、手段を利用した効果的な啓発活動を実施する。	選挙期間中	MRTテレビ「Check!」 UMKテレビ「Uコレ!」 MRTラジオ「GO!GO!ワイド」 FM宮崎「耳が恋した」

○キャッチフレーズ：「私たちの宮崎のために一票を」

私たちの  
宮崎のために  
一票を

松田 里奈  
標榜 46 キャプテン

令和5年 宮崎県議会議員選挙

投票日 4.9日

期日前投票 4.1日～4.8日

選挙情報発信中!  
@kagurameisui 神楽めいずいん

各投票所における感染症対策

消毒 手洗い場等の設置

マスク スタッフのマスク着用

換気 会場の定期的な換気

除菌 記録台や記録の消毒

宮崎県選挙管理委員会・市町村選挙管理委員会・明るい選挙宮崎県推進協議会・市町村明るい選挙推進協議会 県議会議員選挙 宮崎県 Q

○ショッピングセンター等での街頭啓発

① 日程・場所

- 令和5年4月1日（土）イオン延岡SC  
アミュプラザみやざき
- 4月2日（日）イオンモール都城駅前  
イオン都城SC
- 4月4日（火）宮崎大学  
※入学オリエンテーションでの講話
- 4月6日（木）宮崎山形屋前
- 4月8日（土）イオンモール宮崎



- ② 参加者  
 宮崎公立大学選挙啓発部「ライツ」  
 宮崎大学選挙啓発団体「VOICE」  
 みやざき犬「ひいくん」  
 宮崎県明るい選挙啓発マスコット「神楽めいすいくん」  
 県選挙管理委員会職員
- ③ 配布資材  
 チラシ、ポケットティッシュ、アルコール除菌シート

## ○宮崎大学地域資源創成学部入学オリエンテーションでの講話

宮崎大学地域資源創成学部の入学オリエンテーション（4月4日）に際し、宮崎大学からの依頼により主権者教育の一環として、宮崎県選挙管理委員会書記長講話を行いました。



## ○テレビ、ラジオ等による広報宣伝

- ① テレビスポットCM放送  
 3月31日から4月9日（投票日）までの10日間  
 UMKテレビ宮崎 15秒CM…60本  
 MRT宮崎放送 15秒CM…60本
- ② ラジオスポット放送  
 3月31日から4月9日（投票日）までの10日間  
 FM宮崎 20秒CM…20本  
 MRT宮崎放送 20秒CM…20本
- ③ テレビ・ラジオ番組等  
 MRTテレビ「Check!」  
 UMKテレビ「Uコレ!」  
 MRTラジオ「GO!GO!ワイド」  
 FM宮崎 「耳が恋した」 等

- ④ 街頭ビジョン放送
  - ・ Eki-Vision（宮崎駅）  
（4月1日～4月8日までの9日間）
  - ・ イオンモール宮崎デジタルサイネージ  
（4月1日～4月8日までの9日間）
  - ・ AMUビジョンでのテレビスポットCM上映  
（3月31日～4月9日までの10日間）

## ○その他の啓発活動

- ① 市町村での啓発
  - ・ ポスターの設置、啓発資材の配布  
配布資材：ポスター、チラシ、ポケットティッシュ
  - ・ 広報車での広報  
※ 県選管作成の広報テープを配布
- ② 店舗等での啓発
  - ・ ポスター掲示、チラシ等配布
  - ・ AMUビジョン、Eki-Vision、イオンモール宮崎デジタルサイネージによる放映
- ③ 公共交通機関を用いた啓発
  - ・ JR 駅構内10箇所にポスターを掲示
  - ・ JR 車両内中吊りポスター掲示
  - ・ 宮崎交通バス車内に車内ポスター掲示
- ④ インターネットでの啓発
  - ・ SNSを利用した啓発  
Facebook、Twitter での選挙情報配信
  - ・ インターネット広告
 

YouTube 広告	表示回数	191,095回
DSP 広告	表示回数	1,336,041回
LINE 広告	表示回数	1,460,278回
TikTok 広告	表示回数	257,785回

 （3月31日～4月9日までの10日間）

- ⑤ 懸垂幕の設置  
本庁、県内各庁舎（9箇所）及び宮崎山形屋
- ⑥ 新聞広告
  - ・ 「県政けいじばん」（県内5新聞）
  - ・ 記事下等広告
- ⑦ 選挙公報での啓発広告





---

## 令和5年度啓発の記録

(問合せ先) 宮崎県選挙管理委員会  
明るい選挙宮崎県推進協議会  
宮崎県宮崎市橘通東2丁目10番1号  
TEL 0985-26-7024  
FAX 0985-27-7919

---